

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 112 号	2010年11月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

ー10月31日（日）常盤公園にて開催のエコフェアに参加

宇部地域環境パートナーシップ会議メンバー会員（5会員）の環境活動の啓示を行い、宇部市主催のエコフェアを盛り上げました。現在宇部環境パートナーシップ会議の会長は、藤田忠夫（元市長）事務局長は浮田正夫（NPO 宇部環境コミュニティ会長）です。

ー11月07日（日）維持活動（修復とエコアップ）

蓮田のカヤツリクサ、ヒエ草（夜這い草）、オオフサモの駆除、湿地帯のスゲ草間引き、イノシシ被害個所の抜き取り草の処分等、水の中での活動でした、参加されました13名の方々の御苦労に感謝します。来年の3月までエコアップが主な活動になると思われます。

次回の活動日20日は二俣瀬の文化祭と重なりますので27日（第四土曜日）に変更になります。またエコアップ活動が主体となると思われます。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

ー12月8日（14時半）北九州市から見学会あり、後述事務局便りに詳細あり

北九州市、環境局、環境モデル都市推進室、自然共生係、生野絵美さん御一行（大型バス）

◎ 行事

ー10月27日（土）維持活動（修復とエコアップ）

ー12月 5日（日）維持活動（修復とエコアップ）

ー12月18日（土）維持活動（修復とエコアップ）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

日付不明 今日はいいてんきだ。トンボ、アメンボ、メダカと友達になったみんなたのしそうだった。よかったね

2010, 10, 21

今日鳥取から父とふたりできました。トンボ、メダカ、ハエ（おそらくハヤ）に会いました。くもり空でした。15:00 S・Tぶち

10月27日

雨あがり 土手いっぱい 彼岸花 T・N

（註10／5の記事内素人句 “ひと雨を まっておそしと 彼岸花” に対して）

4. 会員の声 「二俣瀬木田の古城跡探索」part-5 (原田 満洲夫 記)

【ロマン古城探策会】は新しく歴史研究家 小羽山の伊藤さん、萩資料館の落合さん等々御協力を得て更に一步進んだ。2010年10月29日に萩城内の萩資料館の館長である落合さんにお逢い出来た。何を隠そう落合さんは、その昔厚狭郡木田村を知行を任されていた毛利藩吉見家の家来落合氏の末裔であると家系図をから確認できたのである。知行は慶長元年（1596年）から元和4年（1618年）と短い間であったと推察されるが、木田村代官の末裔と二俣瀬の一百姓の末裔が約400年後にお会いすることが出来たということは誠にロマンというほかはない。歯染木の丸城と落合家とのつながりは判明されなかった。

さて、**歯染木の丸城址**の場所特定であるが前号内藤隊員記載の木田山手（「自然の泉」東側）の高さ70mくらいの歯染（シダ）の大藪の頂上辺りが非常に濃厚になった。今後は更に石垣跡、掘切跡、井戸の跡、礎石等の探索をして証拠固めをしていく。

「文献だけのロマンで終わるか？ 旧跡をつかめるか？」

体力と年齢との勝負である。 “長生きと ロマン求めて 歯染の中”

5. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（ 管 哲郎 記）

（30）ウスバキトンボ（トンボ科） *Pantala flavescens* (Fabricius)

日本ではおなじみの「夕焼け小焼けのアカトンボ」ですが、案外本当の正体は知られておらず生態さえも殆ど知られていないと思われます。日本で越冬できる範囲は八重山列島より南とされており、毎年春になると南方から飛来し産卵して日本国内で増えてゆきます。

トンボは普通、卵から成虫になる期間が1年～4年となりますが、この種はわずか1～2ヶ月で成虫になります。ちょうどお盆の頃から稲の刈り入れの終わった秋口に多く見られるのもそのため、気温が下がり生きてゆけなくなるまで北上を続けます。

棲息範囲も広く平地から山地までの水田、溝川、湖沼、湿地、水溜り、プールなどで繁殖します。水田が近くに広がる市街地のコンクリート3面張りの水路にも平気で棲み、コンクリートによじ登って羽化します。

羽化を観察するには、昼間羽化殻を見つけておき夕方午後7時ごろ水路を点検します、ヤゴはその頃に上陸し暗くなった8時、9時、頃より羽化を始めます。羽化時間はおよそ2時間ほどで終わります、気温にも影響されますので曇りで気温の低い日には2時間半ほどかかるかもしれません、羽化は9月上旬まで見られそうですが羽化殻を確認することが大切です。



成熟した♂ 背中が赤くなっている



休止する♀



群れで休止中、10頭ほどの集団休止が見られることもあります



ウスバキトンボの連結交尾、飛びながら交尾しますがあっという間に終わります

6. 会よりの連絡事項 （事務局より）

1) 12月来客の内容

北九州市環境局の生野（いくの）と申します。

この度、私どものボランティアさんの研修できらら浜自然観察公園を訪れようと計画しています。今回は2年後にオープン予定のビオトープのツアーガイド養成を兼ねて伺うことにしています。きらら浜のレンジャーさんに、是非二俣瀬のビオトープにも足を運んでみてはと紹介していただきました。

その中でホームページを拝見いたしました、駐車場は市民センターを利用とのことでした。

日程は12月8日（水）を予定しており、14時半くらいに到着すると思われます

2) 大人の観察会も先月の「宇部市地球温暖化対策ネットワーク」との協賛事業で今年は終了しました。テスト的にもなりましたが、検討し更により良い勉強会として充実した内容となるよう頑張らしましょう。ついては冬場は遅れ気味のエコアップ作業や修復作業が目白押しになっています。よろしくご参加下さるようお願いいたします。

7. 編集後記

10月の観察会として、宇部市地球温暖化対策ネットワークとの共催で、イベント「どんぐり拾い」を実施しましたが、今年は猛暑のためかどんぐりが少なくて実施してもどんぐりが拾えないのではないかと危惧しまして、宇部市近郷のどんぐりのありそうな所を散策しました。菩提寺山、荒滝山、平原岳、霜降山の男山、アクトビレッジ小野、真締川ダムなどのどんぐりのあると思われる所を調査しましたが、今年は少なかったです。平原岳では、猿の調査を宇部市から依頼されている山大的女性教官にお会いしましたが、食糧が少なく猿の活動が今年は広がっていると言われていました。動物にとっては温暖化うんぬんより死活問題です。農家にとっては獣害は困りものですが、動物にも住みよい世界になって欲しいものです。そんな心配もしながら、無事イベントを終えることができ、ホッとしていますが、これもビオトープの会員の協力があつたからこそと感謝で一杯です。この協力的な頼りになるビオトープの会員の活動がずっと続くことを願っています。

（西原 一誠 記）